

今冬は平年に比して暖冬ではあったが、降雪は歴史的な大雪となった網走地方をも含め朔東管内大雪であった。帯広の気象統計によるとこの時期の平年値が -0.6°C であるが、今年は、 -0.5°C と 1°C 以上高かった。最大積雪量も平年の 128cm に比して 238cm であり、降雪量は平年値 156cm に対し 272cm であり、平年の 1.7 倍であった。



(長さ 5m 程のツララ:見辛いかもかもしれませんが・・・)

3月に入って、寒の戻りがあり厳しい寒さが続いていたが、その寒気も次第に緩み始めたようだ。夜明けも早くなり、太陽が日高山脈に沈むのも遅くなったと実感する。3月5日は、二十四節気と言う「啓蟄」、即ち蟄虫(冬ごもりの虫)がはい出る頃である。暦の上では春であるが、実際に虫が蠢動し始めるのはもうすこし遅いのだろう。帯広駐屯地の車両整備工場の庇に下がっていた長さ 5 メートル程度の巨大氷柱(ツララ)も、既に無い。

毎朝のジョギング経路上の氷も薄くなり、あちら此方にクラックが走り、所々細かい碎片に割れている。不思議なことに氷は下と言うかコンクリートや地面に接しているところから融け始めるようだ。

帯広駐屯地隊内道路脇の隊員諸官の汗の結晶でもある雪壁も不思議なことに下の方と太陽光に長く照射される所からスカスカになり、何時しか崩れていく。樹木の根っこの周辺の雪から早く融け始める。熱が下に伝導する？ 陽射しも何とはなしに、強くなったかのように感じるが、期待感の表れのみではあるまい。

三月の末頃にはオープンするゴルフ場もあり、そろそろ黒い軌跡が描かれるだろう。これなど、北海道の春未だ浅き頃の風物詩だろう。上空からの眺めてみると、散布するモービルの操縦手の遊び心が解る。木炭や石炭、焼き砂、或いは籾殻等を器械に入れてスノーモービルで走り回る。聞けば、散布するものによってそれぞれ使用する器械が違うようで、大変だ。畑にも同様の融雪材が散布される。散布されるのは、籾殻などだろうか。散布の時期の判断が難しいのではなかろうか。ある畑では、雪起こしとでも呼んで良いような雪割りも為されている。

道路上の消えかかった停止線等の道路標示も塗り替えが始まりつつある。防雪柵もそろそろ用なしだろう。降ろされつつある様だ。

庭木などに雪吊りや冬囲い(雪囲い)などが施してあるかと思って気を付けて見てみたけれども、見つけることは出来なかった。ここ十勝ではそのような事は必要ないのかもしれない。春、雪の心配がなくなると、雪吊や冬囲いの撤去が行われる筈なのだが・・・

十勝の特異なD型ハウスの中でも、春雪融けに備えての準備作業に余念がない。ナガイ

モノの植え付けの準備やビートポットへのビートの播種が行われつつあるようだ。外目には見えないが・・

また、十勝管内のデータで推測する限りにおいては、求職者数も3ヶ月ぶりに前年を上回り、前年比+1.6%、新規求人倍率が1.04倍と前年の0.90を上回り、有効求人倍率も0.60倍から、0.64倍へと僅かではあるが改善されつつある。この様に労働環境は緩やかに改善され、十勝の農業粗生産額は、2500億円と前年比+0.8%と過去最高を記録した。

「冬来たりなば、春遠からじ」という言葉があるが、天候気象のみではない。労働環境や雇用環境等日本も長いトンネルを抜け出そうな予感がする。正に春遠からじ、すぐ其処に萌え出ずる春が訪れんとしている。

(参考；日銀及び気象台資料)